

## (6) 東海



東海地域では、景気は持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)。

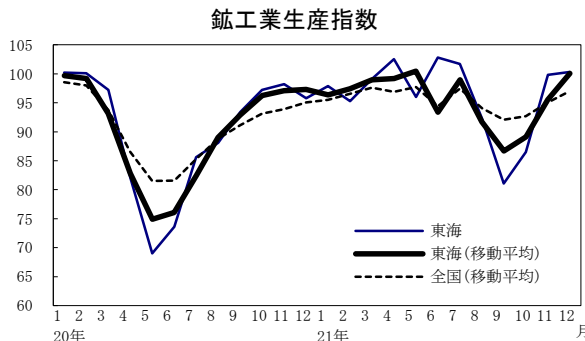
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和3年12月)	今回 (令和4年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、このところ弱い動きとなっている	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	↑
鉱工業生産	弱い動きとなっている	緩やかに持ち直している	↑
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	↑

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が増加したこと等により、前期比4.2%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。  
 2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 東海は内閣府にて算出。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	40.1	▲18.0	11.7	19.5	37.3	2.8
電子・電気・情報通信	13.3	▲3.6	▲0.2	2.1	1.3	▲0.5
石油・石炭・化学・プラスチック	13.0	▲5.8	▲0.0	0.0	7.5	▲1.2
乳・生産・業務用機械	11.2	2.1	0.1	1.6	3.3	▲2.9
鉄鋼業、鉄合金、金属製品	6.4	▲3.7	0.0	0.1	11.4	0.7
鉱工業	100.0	▲8.7	4.2	6.7	15.4	0.5

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 10-12月期、12月は速報値。  
 3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

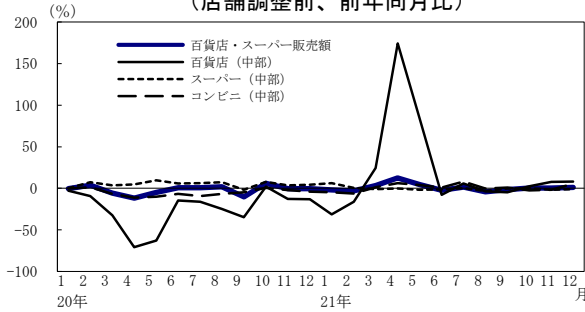
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比3.0%増となった。月別にみると、10月は前月比2.9%増、11月は同0.5%増、12月は同1.0%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.6%増となった。月別にみると、10月は前年同月比0.5%増、11月は同0.2%増、12月は同1.0%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	3.0	2.9	0.5	1.0
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.5	0.2	1.0
百貨店(*3)	6.4	2.3	7.7	8.2
スーパー(*3)	▲0.9	0.3	▲1.8	▲1.1
コンビニ(*3)	0.4	▲2.6	▲1.9	5.5
乗用車(*4)	▲19.8	▲33.8	▲14.7	▲10.6
(季節調整値) (*4)	▲0.3	16.1	16.9	4.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

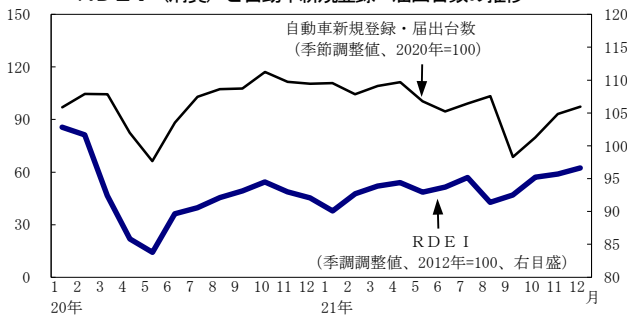
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

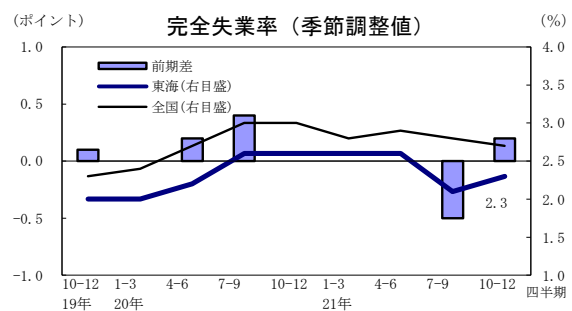
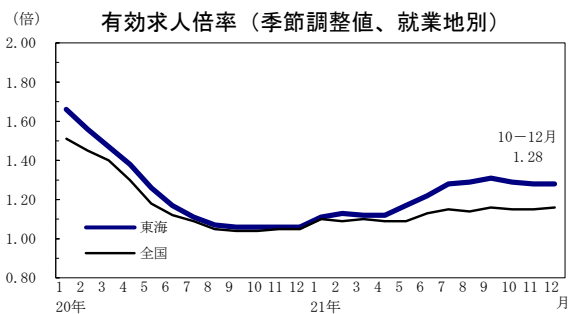
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

6. 東海

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
▲			・新型コロナウイルスオミクロン株でまん延防止等重点措置が適用され、時短営業や休業で厳しい。人出がない（バー）。
×			・まん延防止等重点措置が適用されてから、入りかけていた一般宴会はストップし、入っていた予約もキャンセルが相次いでおり最悪の状況である。個人宿泊もしかりで、どんどん減少の一途をたどっている。今月末～来月のまん延防止等重点措置の期間中に、3～4日間の全館休業をせざるを得なくなった（観光型ホテル）。
企業 動向 関連		○	・引っ越しに伴う新規契約の増加と、在宅ワークによるネット回線の申込みが増加している（通信会社）。
		□	・半導体や電池関連製造業からの増産依頼が続いているが、設備を増強しようとしても部品が思うように入らない。休日出勤で賄っている（窯業・土石製品製造業）。
		▲	・原料価格の高騰が4月以降も続く見込みで、販売価格の上げをスムーズに実施できなければ、収益を圧迫することは必至である（食料品製造業）。
雇用 関連		×	・折込チラシが年明けから減ってきている（新聞販売店 [広告]）。
		○	・求職者の動きが鈍く、新規登録者数が低調である（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント		○	・新規求人数は前年同月と比べて増加傾向が継続している。製造業のうち主要業種である輸送用機械器具製造業の求人数は、完成車メーカーにより差はあるものの、半導体等の部品の供給不足の影響が改善傾向にある等の理由から、前年同月と比べ増加が続いている（職業安定所）。
			▲：堅調に求人数が増加していたが、まん延防止等重点措置が適用され、求人数が3か月前比では減少に転じている（人材派遣会社）。
		×：新型コロナウイルス感染の爆発的な拡大と、県の旅行補助キャンペーン中断のため、旅行の受注はゼロになった。今後も復活する見込みはない（旅行代理店）。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない限り、この状態が続くと思う（美顔美容室）。
		▲	・大豆や油の価格が高騰し、値上げのニュースがどう響いていくか。ガソリンも依然高値を維持しているので、野菜全般の仕入価格も高くなり、価格転嫁せざるを得ない状況になっていくと予想される（スーパー）。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたとしても、部品の生産がすぐに垂直に立ち上がってくるわけではないため、3か月先は今よりはましであろうが、かつての調子で生産量が伸びていくとは思えない（輸送用機械器具製造業）。
		▲	・物量の減少傾向に加え、運転手不足や半導体不足を主因とするトラック納入の大幅遅延が重なって生産力が足りず、売上確保に支障が生じると見込まれる（輸送業）。
雇用 関連	□	・実際のところは分からないという感覚である。新型コロナウイルスオミクロン株の終息がみえれば上向くと期待できるが、短期的にはまだ予測がつかない（新聞社 [求人広告]）。	
その他の特徴 コメント	○	○：新型コロナウイルスオミクロン株が2月にピークアウトすれば、来客数は伸びるのではないかと。今まで外出を控えていた慎重派にも購買意欲が戻ることを期待する（家電量販店）。	
	▲	▲：新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、それに加えて主要原材料の値上げが発表された。取り急ぎの価格転嫁はとて無理な状況下で収益面では大きな打撃があり、景気はやや悪くなると思われる（パルプ・紙・紙加工品製造業）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（東海）の推移（季節調整値）

